



博士



あゆむ 歩くん 結さん 結さん
社会福祉協議会 職員

人と人とのつながりが希薄になっている今だからこそ…

困っている人に寄り添う

まずは相談を！ 一緒に解決策を考えましょう。

福祉制度が充実して相談しやすい環境が整った一方、様々な理由で自ら相談に行けず、問題が深刻化・複雑化し孤立を深めている人たちがいます。また、高齢、障がい、児童といった対象別の制度では十分な支援ができない状況もみられるようになってきました。

先日、社会福祉協議会（以下、社協）にあった相談のことで博士と社協職員の歩くん、結さんが話をしています。

この前、ひきこもりの相談を受けたんだけど、なかなかうまく相談にのれなくて…。

話を聞いたのであれば、社協ができることなのか、難しいければ専門家につなぐべきなのか、整理したらいいんじゃない。

そうなんだけど、ひきこもりは「高齢」や「障がい」といった対象ごとの制度に当てはまらなくて、どこにつなぐべきなのか分からなくなっちゃって…。

そうじゃな。最近では困りごとを聞いても、どの福祉制度にも当てはまらない相談も増えているのじゃ。

確かに…ごみ屋敷やヤングケアラー、ダブルケアなど、複雑な問題が増えたような…。

今回は相談に来てくれたからいいけど、困ってもみんなが相談に来るわけではないよね。

どこに相談すればいいのか分からぬ場合や相談にいく手段がない場合などもあるかもしれないね。

そうそう、しかもそのような人をどうすれば見つけることができるんだろう…。

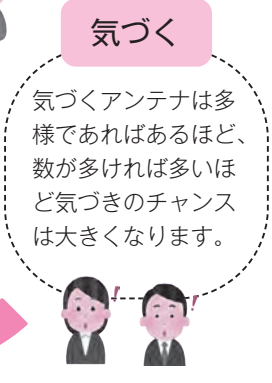
私たちのチカラだけでは難しいなあ。教えて博士!!
確かに君たちや専門家だけでは無理な話かもしれない。

そんな時こそ、地域のみなさんのチカラを借りてみてはどうじゃ。

地域のみなさんのチカラをどうやって？
地域には毎日そこで暮らし続けているからこそ育まれた関係性や助けあい、支えあいのつながりがあるはずじゃ。

地域の誰かが気づいて、相談することができれば、困りごとを抱えた本人とつながることができるとは思えないね。

忘れていたようじゃが、君たちも地域の方の気づきから支援に関わったことがあるぞ。



気にかける

日々の生活の中で自然と気になるところがあれば、気にかけていきましょう。

意識すると、今まで見えなかったことが見えてくる

つないだら終わりでなく、その後もう気にかけて続ける

気づく

気づくアンテナは多様であればあるほど、数が多ければ多いほど気づきのチャンスは大きくなります。

つながる

みなさんがキャッチした気づきを相談機関につなげましょう。遠慮はいりません。

気づいたことをそのままにすると、悩みが大きくなってしまいうことも…